

当案内及び過去に発行した案内は弊社ウェブサイト(<http://www.medience.co.jp/>)よりPDF形式にてダウンロードできます。

新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内致しますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

記

新規受託項目

- [25547] 抗ミュラー管ホルモン (AMH/MIS)

受託開始日

- 平成23年10月17日(月)

抗ミュラー管ホルモン (AMH/MIS)

抗ミュラー管ホルモン (Anti-Mullerian Hormone:AMH) はミュラー管抑制因子 (Mullerian Inhibiting Substance:MIS) とも呼ばれ、生殖系に関わるホルモンの一つです。AMHは男性では胎児期より睾丸のセルトリ細胞で産生され、子宮や輸卵管などの女性生殖輸管系の原型であるミュラー管の発達を抑制する働きがあり、MISの名称はこれに由来します。AMHは小児期までは高値を維持しますが思春期前後より減少し、低レベルで推移します。分泌不全の場合は男性生殖器発育不全により半陰陽が認められることがあります。

女性においては、子宮の顆粒膜細胞より分泌され、一般に男性と比較して分泌量が低く、成人女性では加齢により減少し、閉経期を過ぎるとほとんど分泌されなくなりますが、これはAMHの主要な分泌源である前胞状卵胞の消失によるものと考えられています。

女性の卵は原始卵胞→発育卵胞→前胞状卵胞→胞状卵胞→成熟卵胞というプロセスにより成熟化していきますが、原始細胞が覚醒し発育し始めるとAMHを分泌するため、その量は発育細胞の数を反映します。

AMHは黄体形成ホルモン (LH) や卵胞刺激ホルモン (FSH) などと比較し、性周期による変動が少ないとされるため検査値の評価がしやすく、また採血のタイミングなどに制約がないと考えられています。また卵巣の老化を把握するためにも有用とされ、AMHの分泌量が低いと卵巣の老化が進んでいる可能性があり、妊娠が困難な女性の卵巣の予備能や不妊治療成功の予測因子などの評価に関しても検討が進められています。

また、近年の研究では多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) で高値になることが分かっており、早発閉経などへの臨床応用にも期待されています。

検査要項

項目コード	25547
検査項目名	抗ミュラー管ホルモン (AMH/MIS)
検体量/保存方法	血清 0.3mL/凍結
検査方法	EIA
基準値	設定せず
報告単位	ng/mL
所要日数	3~16日
検査実施料	未収載
定価	8,000円

参考文献

宗 晶子, 他: 日本臨床, 68(7), 501~504, 2010.